

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	玉野市児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	令和7年1月10日		～ 令和7年1月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	0	(回答数) 0
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	適切な支援の提供	今期の訪問支援の実績はありませんが、お子様の成長段階を適切に捉えるため、アセスメントの強化を行っており、お子様の成長に合わせて環境構造や活動を変更していくこととしています。これに関しては、当センター内のケース検討に加えて、専門家からのコンサルテーションを受講することで、職員の経験や感覚だけではなく、一人ひとりの成長段階とエビデンスに基づいた支援の展開に繋がっていると考えます。	現状は、正規職員を中心に研修を受講しているが、研修の範囲を非常勤職員まで広げることで、職員全体が障がいに対して正しい理解と技術を持つことで、お子様の将来像の広がりにつながり、強いては虐待防止への取り組みに繋がれるものと思われるため、今後も職員の学習機会には時間を費やしていきたいと考えています。
2	関係機関や保護者との連携	児童発達支援センターという中核的な役割を担っていることで、平素から地域との関係機関への発信や連携を図ることで、お子様、家族のニーズに応じた地域移行の実践や、インクルージョンの風土が広がるようマルシェを企画し、地域住民や他園児との接点を持てるよう努めています。また、地域からもセンターの役割を理解頂くための、施設開放を行い、構造化や視覚支援等の支援技術等、幼稚園、保育園の先生方にも療育に触れて頂く機会を設けています。	お子様の将来像が具体的に広がるよう、保護者とのコミュニケーション機会はまだまだ少ないと考えています。本心のニーズに応じていくには、平素からのコミュニケーションを積み上げ、お子様のこと、家族のことを理解し、お子様にとって、家族にとって必要な経験を提供していけるよう努めていきます。また、ご家族の育児観に寄り添っていくために、相談しやすい場を創ることも大切な役割として、継続して努めていきます。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	業務改善	今期訪問支援が実施できなかった要因としては、児童発達支援センター全体における人員の定着不足によるものと考えています。	人員配置を見直すとともに、ICT等の活用において、業務の効率化を図っていきます。それによって生まれた時間をお子様、ご家族の支援に活かしていきます。また、中核的な役割として、情報発信や相談窓口としての機能強化に努めていきます。
2	保護者への説明等	適宜、必要な情報については、保護者に周知していますが、周知の内容については一方方向であることが多いため、本来協働していくべき内容もアンバランスが生じているように感じています。特に家族支援においては、個別的な対応は実施できているものの、家族間の連携やペアトレといった家族支援の在り方については、さらにアプローチしていくことがあると考え、当該報酬改定の中にもあったきょうだいの支援についても、具体的な支援策が必要であると考えています。	センターにおける保護者会活動については、現状においても協働していると考えていますが、今後の機能強化としては、保護者の学習機会の提供は必要であると考えています。お子様や家族の将来を考えていく中で、変遷する制度のことや使えるサービスなど、今の成長課題だけではなく将来像が具体化できる研修や情報共有の機会は必要であると思います。その一環としても、個別支援計画がさらにご家族の希望が反映できる具体的な内容になるよう、具体的なニーズの抽出、お子様が目指していくゴールの設定をより深めていけるよう努めていきます。

--	--	--	--